

事後評価結果(令和元年度)

担当課：河川整備課

担当課長名：赤堀 良信

事業名	総合流域防災事業	河川名	おくがたがわ 奥 潟 川	事業主体	徳島県
区間	上流：徳島県海部郡美波町奥河内字奥潟地先 下流：徳島県海部郡美波町奥河内字寺前地先			改修延長	L=1,900m

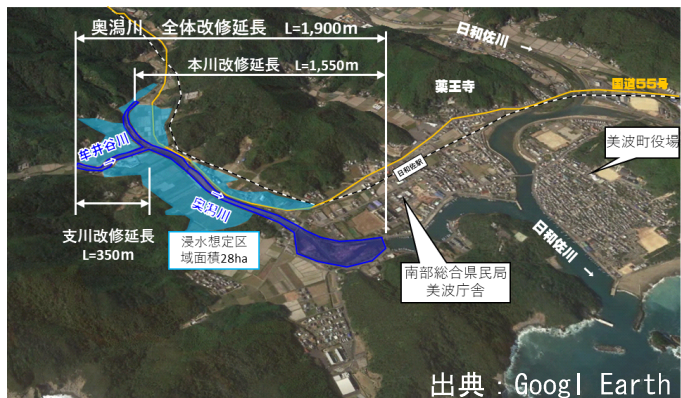
事業概要

奥潟川は、その源を美波町の横川の中山に発し、途中支川牟井谷川を合わせ、美波町を貫流し太平洋に注ぐ、流域面積約6km<sup>2</sup>、流路延長約3kmの二級河川である。  
奥潟川では、河道断面が狭く流下能力が不足していたため、古くから豪雨等による甚大な浸水被害に繰り返し見舞われていた。このため、浸水被害を軽減させることを目的に、昭和44年度から全体改修延長1,900mの河川改修を実施し、平成24年度に完成した。  
【事業計画】  
改修計画延長：1,900m(奥潟川1,550m、牟井谷川350m)、治水安全度：1/30  
計画日雨量：348mm、計画流量：120m<sup>3</sup>/s

事業の目的・必要性

奥潟川では、豪雨等に起因する流域内の浸水により、家屋や農作物、及び交通途絶など多岐にわたる被害が発生し、流域住民が経済的・精神的負担を受けてきたことから、河川改修により浸水被害を軽減し、民生の安定と産業の活性化を図る。

事業概要図



出典：Google Earth

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・昭和54年8月31日の台風12号において床下浸水5戸の被害が生じた。
- ・平成15年7月18日の豪雨において、床上浸水5戸、床下1戸の被害が発生した。

事業効果

- ①計画上の事業効果
  - ・事業実施により、概ね30年に1回程度発生する降雨に対応できる治水安全度を確保した。
  - 【想定浸水戸数】  
着手時：31戸 → 事業完了後：0戸
- ②確認された事業効果
  - ・平成26年8月台風12号により、過去に浸水被害のあった降雨と、同程度の降雨を観測したが、浸水被害は発生しなかった。
- ③事業実施による環境の変化
  - ・環境配慮型ブロックにより護岸整備した結果、整備前と同様の動植物の生息環境が再現できている。
- ④その他の事業効果
  - ・本河川の改修により、緊急輸送道路である国道55号の道路冠水による通行止めが解消が期待された。
  - 【通行止め回数】  
H9～H24：5回(40h) → 事業完了後(H25～R1)：0回

奥潟川流域の浸水被害の推移

年月日	事業前	事業中	完成後
	昭和41年8月14日	平成15年7月18日	平成26年8月2日
異常気象	(※)台風13号	豪雨	台風12号
最大1時間雨量	89mm	60mm	54mm
日雨量	409mm	424mm	404mm
浸水戸数	床上	1戸	0戸
	床下	12戸	1戸
	合計	13戸	6戸

※ S41T13の被害は、水害統計からの推計値



事業期間	事業化年度	S44年度	用地着手	S46年度	工事着手	S47年度	B/C	1.6
	完了年	H24年度					(H19時点)	
事業費	前回評価時	22.0億円		実績	25.4億円		前回比	1.15倍

課題と今後の反映

【用地難航による事業の長期化】  
事業着手にあたっては、地元自治体との協力関係の構築や地元説明会の開催など、用地交渉についての協力体制を整えてから事業を進めることにより、事業期間の短縮による、早期事業効果の発現が期待できる。